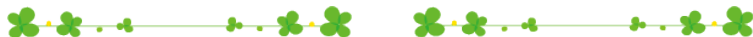


阪神カウンセリング・ラボ ニュースレター

2018 7月号



「理性」より強烈な「快感」

人が快と感じるのは、ドーパミンと言われる快樂物質である神経伝達物質の働きによります。ドーパミンを分泌する神経A10は、中脳の腹側被蓋野という部分から出て、前頭連合野や、海馬、扁桃、視床下部など、脳の様々な場所に伸びています。この快感は、人が生存するために必要なものであり、また種族が維持されるためにも必要な時に活性化されるものです。カウンセリングを受けている方誰もが学習することですが、ストレスが続くと起こしやすくなる衝動的行為のすべてが快感を伴うものです。ストレスが続くと起きやすくなる衝動的行為には、性的欲求、睡眠欲求、食欲に関する三大欲求と呼ばれる行為が該当します。一見快感には思えないような拒絶や攻撃も、実は人類の長い歴史を通して、人が生きるため、また種族を保護・保存していくために得られた快感につながるものです。だから、ストレス下における怒りや攻撃は、その快感のために理性では抑えきれなくなってしまうのです。

受講生募集！

場所:梅田相談室
料金:4,000円(税込)



平成30年1月～平成30年7月(予定) アサーション・トレーニング 理論編

7月 8日(日) 15:00～16:30

⑦言語以外のアサーション

アサーション・トレーニング

7月 1日(日) 17:00～18:30

○自分の気持ちを確認する(1)

(ロールプレイは随時実施)

マインドフルネス トレーニング 全8回

7月 22日(日) 17:00～18:30

第6回 思いやりとマインドフルネス

マインドフルネス トレーニング 復習編

7月 21日(土) 17:00～17:50

料金:3,000円(税込)〈復習編〉

マインドフルネスに関心のある方、**復習編に体験参加**してみませんか。参加希望の方は、お電話でお知らせください。

教育時報社から、ギャンブル依存症に関するインタビューを受けました。

以下は、ギャンブル依存症に関するDSM-5の基準です。そこには、衝動制御症群 病的賭博(ギャンブル障害)として以下のように診断されています。

- 【耐性】 当人はギャンブルをコントロールしているのではなく、逆にギャンブルに支配されている。いくらギャンブルをしても満足せず、掛け金を増やし続けなければ以前のスリルが感じられなくなる。
- 【離脱】 やめると、苛立ち、落ち着きのなさ、不安、悲しみといった離脱症状が起き、もっとギャンブルをしたくてたまらなくなる。
- 【強迫的使用】 以前のように楽しくないにもかかわらず、ギャンブルを続けなければならないように感じる。
- 【問題行動・支障】 経済状態、家庭、仕事の能力、法的立場、自尊心に深刻な損害を与え続けながらギャンブルを執拗に続ける。

国会ではIR法案などが審議されましたが、これに伴うギャンブル依存症の増加を懸念したインタビューであったと思われます。3回にわたって記事が掲載されました。

阪神カウンセリング・ラボ

<http://www.hanshin-cl.com/>
<http://www.wakaru-ha-kawaru.com/>

* 梅田相談室

〒530-0014

大阪市北区鶴野町4-11 朝日プラザ梅田9階910

Tel/Fax 06-6147-2533

E-mail hanshin-c.l@star.ocn.ne.jp

* 明石相談室

〒673-0891

明石市大明石町1-7-4 白菊グランドビル512

Tel 078-917-6880

